

中東の民衆と社会意識

加納弘勝 編

中東の民衆と社会意識

加納弘勝 編

アジア経済研究所

研究双書 No 405
加納弘勝編 『中東の民衆と社会意識』

英文表題および目次

Title

(Chuto no Minshu to Shakai-Ishiki)

(Social Consciousness of the Middle Eastern People —Hopes and Solidarity—)

Edited by

Hiromasa KANO

Contents

Chapter 1. An Approach to Social Consciousness of the Middle Eastern People
(Hiromasa KANO)

Chapter 2. Islam and Social Consciousness in Iran
(Koji KAMIOKA)

Chapter 3. Saintliness in Modern Morocco : “Sacred and Profane” of Bou Salem’s Children in High Atlas
(Masaki HORIUCHI)

Chapter 4. A Social Bandit and “Hidden” Hero in a Turkish Novel
(Hiromasa KANO)

Chapter 5. Social Integrity in Modern Iraq
(Keiko SAKAI)

Chapter 6. Palestinian Consciousness in “Diaspora” Society : A Case of a Refugee Camp in Jordan
(Akira USUKI)

Chapter 7. Urbanization and Solidarity : the Transformation of Feud Custom in Modern Egypt
(Eiji NAGASAWA)

(Kenkyu Soshu (IDE Reserch Series) No.405)

Published by Institute of Developing Economies, 1991
42 Ichigaya-Hommura-cho, Shinjuku-ku, Tokyo 162, Japan

中東の民衆と社会意識

- かのうひろまさ
加納弘勝 (津田塾大学学芸学部国際関係学科助教授)
- かみおかこうじ
上岡弘二 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授)
- ほりうちまさき
堀内正樹 (二松学舎大学文学部専任講師)
- さかいけいこ
酒井啓子 (アジア経済研究所総合研究部)
- うすき あきら
臼杵 陽 (佐賀大学教養部助教授)
- ながさわえいじ
長沢栄治 (アジア経済研究所地域研究部)

(執筆順)

中東の民衆と社会意識

研究双書405

1991年3月25日発行©

編者 加納弘勝

発行所 アジア経済研究所 東京都新宿区市谷本村町42
電話 東京 (3353) 4231(代)

印刷所 コロニー印刷 東京都中野区江原町2-6-7

ISBN4-258-04405-9-C3033



IDE

目 次

まえがき

第1章 中東地域における社会意識	加納弘勝	3
第1節 1990年代3つの潮流と「文化的なもの」の浮上		3
第2節 1990年代における中東諸国の開発計画と「文化的なもの」		8
第3節 社会意識の諸層とその研究について		14
第4節 民衆文化と民衆意識，いくつかの研究による指摘		19
第5節 第三世界における英雄の条件：指導者の条件1		23
第6節 (実態の) 認知レベルにおける指導者像， 期待される指導者の基準と機能		27
第7節 もうひとつの英雄，英雄としての犯罪者		31
第8節 もうひとつの社会的指導者，聖者の機能		36
第2章 イランの民衆のイスラムと社会意識	上岡弘二	43
はじめに		43
第1節 民衆のイスラムと社会意識		44
第2節 民衆のイスラムとカルバラー・パラダイム		47
第3節 カルバラー・パラダイムにおける救済のパターン		54
第4節 革命，戦争とカルバラー・パラダイム		61
第5節 民衆のイスラムとイラン的運命論		66
おわりに		70

第3章 モロッコにおける聖者をめぐる社会意識 ……堀内正樹…85

はじめに ……………85

第1節 宗教場面の構成 ……………86

 1. 宗教意識と「宗教人格」 ……………86

 2. 宗教人格の特性と地上的媒体 ……………89

 3. 宗教場面の実際の現われ方 ……………91

第2節 宗教場面の今日的状況 ……………93

 1. 知識人としてのスーフィー、ワリーハ ……………93

 2. 「実践者」の社会基盤の崩壊 ……………96

第3節 ザーウィヤ・シディ・ハムザ ……………98

 1. 村と聖者 ……………101

 2. 系図認識と聖者 ……………107

 3. 子孫集団と外部社会との関係 ……………116

おわりに ……………123

第4章 トルコにおける山賊(義族)と英雄と聖者 ……加納弘勝…127

はじめに ……………127

第1節 トルコにおける山賊と義族 ……………129

第2節 土地篡奪過程と聖者メフメット ……………134

第5章 現代イラクの社会意識 ……酒井啓子…147

第1節 アラブ・ナショナリズムとメソポタミア・アイデンティティー …149

第2節 伝統的社会意識に対する国家政策 ……………153

第3節 「国家絶対権力者の存在」と「絶対者の不在」 ……………156

第6章 パレスチナ人意識と離散パレスチナ人社会 …白杵 陽…161

はじめに ……………161

第1節 何故アッパースィーヤ村なのか ……………164

1. パレスチナ人の社会意識を分析するための方法と資料 ……………164

2. あるパレスチナ人の個人史 ……………168

3. アッパースィーヤ村の現在 ……………173

第2節 アッパースィーヤ村の崩壊 ……………177

1. 1948年以前のアッパースィーヤ村 ……………177

2. パレスチナ人の抵抗と1948年戦争 ……………185

第3節 アッパースィーヤ村の「復活」 ……………191

1. パレスチナ人社会崩壊がもたらした諸影響 ……………191

2. パレスチナ人難民キャンプの特質 ……………194

3. 「アッパースィーヤ村民協会」の設立 ……………197

おわりに ……………201

第7章 都市化と社会的連帯—上エジプト農村とアレキ

サンドリア市港湾労働者社会の事例比較 ……………長沢栄治…211

第1節 序論—問題関心の設定 ……………211

1. 都市化と社会的連帯をめぐる問題状況 ……………211

2. 分析の素材とその空間的設定 ……………217

第2節 上エジプト農村とサル(fend)慣行 ……………220

第3節 アレキサンドリア市港湾労働者の社会 ……………233

むすびにかえて ……………250